

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年9月24日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 EBM研究センター

職 名・学 年 研究員

氏 名 保 野 慎 治

事業区分	平成21年度・国際研究集会派遣助成	
研究集会名	ヨーロッパ心臓病学会2009 (ESC Congress 2009)	
発表題目	ハイリスク高血圧患者における収縮期高血圧の意義: CASE-Jサブ解析 Clinical Implication of Isolated Systolic Hypertension in the Antihypertensive Treatment for High-risk Hypertensive Patients: A Subanalysis of CASE-J Trial	
開催場所	スペイン・バルセロナ・Fira Gran Via	
渡航期間	平成21年8月28日 ~ 平成21年9月3日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	往復航空料金の一部: 150,000円
		宿泊料・滞在費の一部: 50,000円

成果の概要 / 保野慎治

研究集会名： ヨーロッパ心臓病学会 2009 (ESC Congress 2009)

開催場所： スペイン・バルセロナ・Fira Gran Via

渡航期間：平成 21 年 8 月 28 日～平成 21 年 9 月 3 日

派遣・報告者： 保野 慎治 (医学研究科・EBM 研究センター・研究員)

1. ヨーロッパ心臓病学会 2009 の概要

ヨーロッパ心臓病学会は、EU 諸国を中心に世界各国から例年約 30,000 人の医師、研究者、看護師、検査技師等が参加する心血管疾患に関する世界最大規模の国際学会集会であり、今年も約 32,000 人が参加した。今回の演題登録数は 9,848 演題と過去最大で、4,085 演題 (日本からは、241 演題) が採択された。心血管病の罹患率は依然として高くまた心血管病は主要な死亡原因であることから、本年は“Prevention of Cardiovascular Disease from cell to man to society”と題して心血管病の予防と危険因子の同定に関する進歩を中心に 78 のセッションで発表が行われた。

2. 報告内容と成果

報告者は、貴財団の国際研究集会派遣助成による支援の下、“Clinical Implication of Isolated Systolic Hypertension in the Antihypertensive Treatment for High-risk Hypertensive Patients: A Subanalysis of CASE-J Trial” (ハイリスク高血圧患者における収縮期高血圧の意義：CASE-J 試験サブ解析) の演題名にて 2 人の司会者の下、9 月 1 日に moderated posters session で発表を行った。本研究では、日本人ハイリスク高血圧患者における収縮期高血圧の臨床的意義について、CASE-J 試験サブ解析として降圧治療中の到達血圧と心血管病発症リスクとの関係を指標に検討し、以下の結果が得られた。

- 1). 収縮期高血圧はハイリスク高血圧心血管において心血管病発症の独立した危険因子であること。
- 2). 収縮期血圧の低下により、心血管病発症リスクの軽減が認められるが、収縮期高血圧患者では、収縮期血圧 140mmHg 未満にしても非収縮期高血圧患者と比べてリスクは約 2 倍であること。
- 3). 収縮期高血圧患者では拡張期血圧を 75mmHg 未満にするとリスクの増加 (Jカーブ減少) が存在する可能性があること

残念ながら最優秀発表者には選出されなかったが、司会者も含め多くの研究

者と貴重なディスカッションを行うことができ、今後の解析に役立つものであった。また、発表の前日には、高血圧領域の権威である Leuven 大学の Robert Fagard 教授と、本研究を含めたこれまでの CASE-J 試験のサブ解析の結果について、統計的手法を含めたディスカッションを行う貴重な機会を得ることができ、今後の研究活動を行うにあたり大変意義深いものであった。

また、EBM 研究センターは主に大規模臨床試験のマネジメント業務に携わっているが、本学会集会では、16 個の大規模臨床試験の結果が、8/30-9/1 の 3 日間 Hot line session - で発表された。その中には日本で行われた Kyoto Heart Study の結果も発表されており、日本の学会集会では聞くことのできない外国人コメンテーターの意見は大変参考となり、今後の臨床試験を企画運営する上で試験デザインの重要性 科学的に結果を解釈する必要性を改めて認識した。その他、主に高血圧に関するサテライトシンポジウム、口述・ポスター発表についても参加し、現在のトピックス、最先端の臨床研究の成果発表をじかに聞くことができ、知識の蓄積・整理に大変有用であった。

今回の国際会議派遣によって多くの成果を得ることができました。最後になりますが、助成して頂きました京都大学教育研究振興財団には厚く御礼申し上げます。

2009 年 9 月 24 日
京都大学大学院医学研究科 EBM 研究センター
研究員 保野 慎治